

25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

三 春 凍 工 鉄 落 化 眼 マ 人 柴 私 九 ラ 心 アル 狂 大 ベ 思 暴 月 チ い 夜
辺 で り 事 は 雷 石 球 カ な 螺 っ 官 ヲ パ こ ペ っ 破 ツ い ま 言 見 ユ も う 驚
が す ゆ 音 海 に あ 化 球 を カ だ べ ジ た 言 と 月 チ も う 症
1 が ゆ に 集 して あ 推 を ロ だ じ オ ま と 罵 見 月 リ う す
2 前 く 扮 羊 の 脚 は せ せ ン だ 閉 心 も 詈 月 月 リ う す
0 ば 豚 ハ 集 う の 脚 は ば 明 持 だ 込 だ 罵 羊 羊 リ う す
c ばかりハッの芯はへつらいつつ 論 だ め だ 罵 腸 の コ 羊 羊
m の 見 へ つ ら い つ つ 論 だ め だ 罵 腸 の コ 羊 羊
の 見 へ つ ら い つ つ 論 だ め だ 罵 腸 の コ 羊 羊
恨 み 引 き 取 ら れ る

50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34 33 32 31 30 29 28 27 26
 循環論法の上で月蝕とかをしてる
 横顔は留まりその他蒸発す
 魚って舌べらありましたっけ冬銀河
 葛鰻頭ガムテープは瞼を曳き
 ケーキお食べ弱った男は懐紙とする
 黄身を打つ鉄杭ほがらかな土曜
 白状することなんてない洗濯機回り出す
 タイヤ痕無思想の昼ごはんかな
 信号無視みみずは土で腫れている
 糊はがれ本が開き出すあなた
 箱詰めのだの目黒し柿を干す
 父の話は口が裂けたら言いますね
 かけ流し女は帰り道を知っている
 分裂をしたたい鏡とか買って
 托卵やどっちがミルクこぼしたのかな
 水を飲もう衛星は母振り落とす
 寂しいか瞼の裏に犬でも描け
 遊具去り人が一本ありました
 背表紙の船発ち私を彼女にしなさいよ
 こんにちは、或いは、ふざけるな、と吠え
 鳥は鳥の体積の内を飛び続け
 川崎で手首がシマウマになったのかい
 またあした祖母の菌莖で呪うから
 サンプルAに思惑立ち込める客間
 ラズベリパイ寄り目で笑わせておくれ

75 隠れましよ
 74 保険売りよ
 73 骨盤が弾け降りかかる腐葉土へと
 72 二重窓の間でキリンゆらいでいる
 71 鯛浮かぶいますぐ屋上まで来いよ
 70 鉄馬だいいい齢をして脱ぎ
 69 多年生の木馬回り祝日を強いるか
 68 遠くばかり見ている男だ羽抜鶏
 67 銀竜草はやく枕を押しつけて
 66 地滑りを見に来る牛だ列車は鏡持たず
 65 欲しがって欲しいと思ふ湯踊りだす
 64 粘土から男こしらえる冬仕度
 63 稚児振り向きあらゆる引用をする唇
 62 米粒に手足が生える女正月
 61 あなたの背のほこりを払う私は今日も生きていい
 60 時間は乳を吸いガジュマルは何を垂らす
 59 木漏れ日を浴びれて廃車は幸せだ
 58 名付けるとはおこがましいこと鳩降り
 57 約20kgの人肉経てテレビ見てる
 56 耳少しづつ歯車となる彼誰（かわたれ）
 55 コンクリで今日を希釈する友達
 54 救急車が急いでいるんだね衣擦れ
 53 これが最後ののかもアイロン冷え
 52 表札割れハイオクがいい香りだった
 51 カーテンめくり母のこと剥がれていく

100 99 98 97 96 95 94 93 92 91 90 89 88 87 86 85 84 83 82 81 80 79 78 77 76
 鼻歌歌え列車は骨を欲しがると
 榊振る鹿悉く胴体無く
 ダンスでもしていたらいい蟻ら満ちる
 話題の無い偶蹄類は海を眺め
 海老は海老を踏み電話掛かって来た気がしてる
 湯が張られくちびるが心から剥がれ
 地価上がる意気地のない抱っこでも続けて
 昼間って暗いもの耳と耳すれ違う
 啓蟄や座ったお尻に穴がある
 雪兎研ぎ切る手ばかりが残り
 光を食み霜降りつもる牛の肩に
 寒犬やあくどい蛇はやつだと言え
 鹿喰いを赦され雌豹分解され
 冷蔵庫の裏に故人の記憶二匹
 大間違いの雲浮き婦人警官記念日
 生まれ来る子のうちの狒々よ欠伸をし
 レーズンパン人柱になるなんて遺憾
 皮剥ぎや遠くに芋の唄が聞こえ
 太陽は肝臓をやられてそうフォックスファーが好き
 雲間晴れて少しつながってくる回路
 螺旋骨折そういうところが好きかも
 表皮母斑のかたちの雨もようだくちすい
 凍土より自分語りの符湧きあがる
 道は凧ぐ小雨依り憑く警官立ち
 地下鉄はあなた吸い込んでいくどうして